

talk! talk! talk! タレント・恵俊彰さん



タレント 恵俊彰さん

司会業、ラジオやドラマ出演、お笑いコンビ・ホンジャマカとしての活動など、マルチに活躍するタレント・恵俊彰さん。現在、お昼の帯番組の顔としてもお茶の間に欠かせない存在だ。写真を始めたのは10年以上前から。デジカメで撮影し、フォトショップで加工するなどこだわりのある楽しみ方をされているという。例えるなら歯ブラシみたいなもの、という程恵さんの日常に溶け込んでいる写真について、たっぷりとお話いただいた。

プロフィール

めぐみ・としあき。1964年鹿児島県生まれ。1987年にお笑いグループ・ホンジャマカとしてデビュー。その後、石塚英彦さんと2人でコンビ・ホンジャマカとして活動する。近年では個人での仕事も増え、特に司会としての手腕が評価されている。

これまでの主な出演作に、ホンジャマカとして「どうぶつ奇想天外！」(TBS系)「ショージに目あり！」(日本テレビ系)「新 得するテレビ ホンジャマカな日曜日」など。

個人では「王様のブランチ」「COUNT DOWN TV特番」(TBS系)、ラジオ「恵俊彰のディア・フレンズ」、ドラマ「毛利元就」

(NHK)「サラリーマン金太郎」(TBS系)「時効警察」(日本テレビ系)など。

現在「関口宏の東京フレンドパークII」(TBS系)「にっぽん菜発見〜そうだ自然に帰ろう」(テレビ朝日系)「MUSIC FAIR21」(フジテレビ系)「J-SPORTS」(TBS系)「2時っチャオ！」(TBS系)に出演中。

Beginning 出会い

15年前からずっとデジタルカメラ派

写真に興味を持ったきっかけを教えてください。

15年くらい前に、東京フレンドパークという番組で写真を趣味にしているスタッフと出会ったんです。その人が自分で撮った写真をフォトショップで加工し、プリントしたものを見せてくれたことがあって、そのときにすごく「ああ、こういう趣味ってかっこいい！」と思ったんです。東京フレンドパークでは、番組で使うキャラクターや、映像で使うための写真を加工したりする作業をフォトショップを使って行って、スタッフの中にフォトショップにハマる人が多かったんですね。そういうのを見ていて面白そうだなと思っていたこともあって、僕も写真を撮ってパソコンで加工して作品を作りたいという気持ちがいってきまして。

パソコンで楽しむことも前提として写真を始めたのですか。

そうですね。パソコンにも興味がありました。写真を撮りたいと思った頃、僕は20代の終わりだったんですけど、30歳からは毎年誕生日には自分へのご褒美として何か買おうと思っていたんです。それで30歳の誕生日にまずパソコンを買い、次の年にデジタルカメラを買いました。カメラは今のものに比べれば画素数はすごく低いし、枚数も全然撮れなかったんですけどね。カメラのスペックが上がると同時に何機か買い替えて、そのたびにメディアなりカードリーダーなりが増えていきました(笑)。

では、始めから現在までずっとデジタル派ですか？

はい。撮って、パソコンで加工して、自分でプリントするという形でやるのが夢だったんです。だから、フィルムではなくやっぱりデジタルカメラをずっと使っています。

15年前というデジタルカメラ自体も、パソコンで写真を加工するという楽しみ方も、まだ浸透していなかったと思うのですが操作は独学だったのですか？

基本的にはそうですね。でも周りにはカメラやパソコンが好きな人が結構いたので、教えてもらうこともできました。当時面白かったのは、たとえばパソコン操作がわからないときにはこの人に聞けばわかる！という人、要するにパソコンにとっても詳しい人の電話番号が出回っていたんです。だから僕も困ったときには、詳しいと評判の全く知らない放送作家の方に「はじめまして、恵ですけど、今こうこうで……」なんて突然電話したりしていました(笑)。電化製品って電源を入れれば動くという感覚があるじゃないですか。でも、あの頃はパソコンとプリンタをつなげてうまく起動しないなんてことがしょっちゅうでしたから。スムーズに動けば、「おぉー！動いた！」と逆に驚くくらいでしたね。

Pleasure 楽しみ

うまく撮ろうとせず 思いっきり感情的に撮る！

普段はどんなときに撮られているのですか？

いつもはコンパクトカメラで気軽に撮っているんですが、たとえば子どもの運動会など何かイベントがあるときは一眼レフカメラで気合いを入れて撮っています。僕は自分の子どもが産まれてから(現在2児の父)、さらに撮ることに夢中になったんですね。今まで撮った写真は6000枚くらいあるんですが、その内でファミリーの写真が5500枚を占めています。いや……、5920枚くらいがファミリー写真ですね(笑)！

すごい枚数ですね。撮影するときは夢中になってたくさん撮られるのですか？

はい。写真は嬉しい誤算というか、狙ってないんだけどいい写真が撮れちゃうときがあるじゃないですか。だから、集中して1枚1枚に時間をかけて撮るといよりは、なるべくひとつのシーンにシャッターを多く切るようにしています。デジタルカメラは枚数や失敗を気にせず何回でも撮れるから、迷いなく思ったままに撮れるのがいいですね。

撮影をするときに気をつけているポイントなどはありますか？

構図のことで言うと、真ん中に撮りたい被写体を置かない。どちらかに寄せて撮りますね。それに、僕の場合は撮ったあとフォトショップでいじるので、そのときにいろいろ加工しやすいように高解像度設定にして、なるべく順光で明るい写真を撮るようにしています。あと、テーマを持って撮ることも多いです。

テーマというのはどういったものですか？

自分が面白いと感じたものですね。たとえば沖縄県の竹富島に行った際、夕暮れどきに写真を撮る何枚か撮っていたんです。撮影していたときには意識していなかったんですけど、家に帰ってからパソコンで見返していたら、地面に自分の影が写り込んでいるも

のが多くてそれが面白かった。それから影をテーマにしているいる撮るようになってみました。ときどきそういった感じで、面白いと思ったテーマに沿って撮影することもありますね。

今まで何千枚も写真を撮ってこられた恵さんにとって、いい写真を撮れる際の条件みたいなものがあれば教えていただけますか？

そうですね、やっぱりその写真を撮っていたときの現場が楽しかったとか、撮っているものに思い入れが強かったりすると、いい写真が撮れる気がします。たとえばアテネオリンピックに行ったときにアスリートの姿に興奮して撮った写真や、いいロケになった、素敵な旅行だったなど気持ちの面で充実していたりすると、それが写真に乗り移る気がしています。写真を撮始めた頃は、いい写真、カッコいい写真を作りたいと思って一生懸命撮って、プリントして飾っていたんですが、それを誰かに見せても何も言わないんですね。「買ったの？」なんて聞かれたり。僕としては力作なんですけど、結局素人がどれだけかっこよく作ろうとしても、結果は見慣れたポストカードと同じなんです。だからよく見せようとか、どっかで見たものを真似るのはやめようと思ったんです。

今ご自身の気持ちに任せて、シャッターを押しているのという感じですか？

はい。もう遊びながら撮りたいように撮っています。

以前、ある有名なフォトグラファーの方が「恵さんの子どもをプロのフォトグラファーが撮ると、その写真は世界のどこかの子どもになる。だけど恵さんが自分の子どもを撮ると、その写真は恵さんの子どもになる。それがプロとアマの違いだ」とおっしゃっていたんです。そうなんだと思って、一時期自分の子どもを、世界のどこかにいる子ども風に撮ってみようとして試行錯誤してみたんです。でもどうしたってできない。自分の子どもはやっぱり好きだから、デレデレの写真になっちゃうんです。「かわいいでしょ、俺の子ども」という感じに（笑）。だからそれでいいんだと思いました。思いっきり感情的で、自分の心のままに撮ればいいんだと。

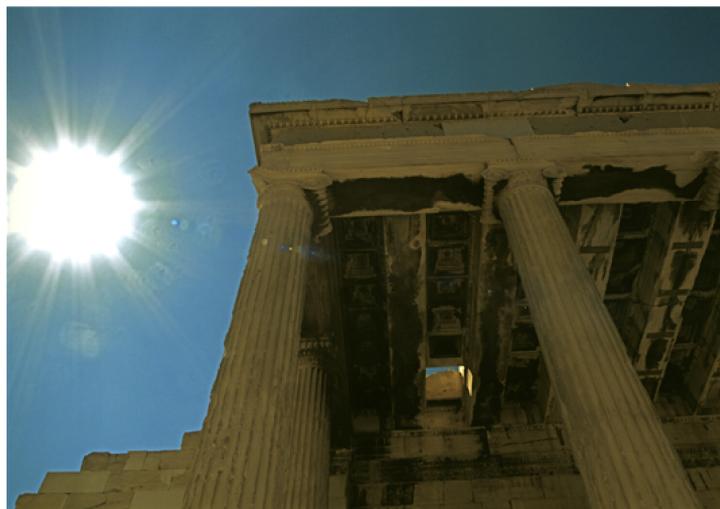


Photo's 作品紹介

恵さんの思いが詰った こだわりの写真たち



1



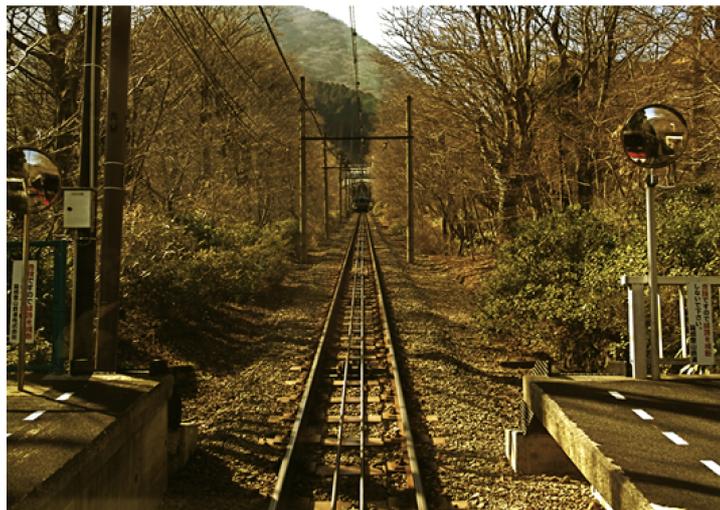
2



3



4



5

Future これから

写真は歯ブラシのような日常的な存在

写真の魅力とは何だと思いませんか？

人生を切り取ることができること。あと、動画じゃなくて静止画だからこそその面白さがありますね。写真に写っているものは動かないけれど、見ている僕の気持ちはどんどん動いてくるんです。僕はビデオカメラでもいろんなものを録るんですが、録画したものを見返すことって正直1、2回なんですよ。でも写真は何回でも見返せるし、見返してしまう。1枚1枚に行間があるという

か、前後を思い出しながら見れるので、自然と心も動かされるんですよね。

恵さんにとって写真とはどういった存在ですか？

歯ブラシとか歯磨き粉みたいな存在です（笑）。毎日あるもの。写真がないとなんだか気持ち悪いなあという感じがします。撮影を毎日するわけではないんですが、部屋に撮った写真を飾っていたり、パソコンで見返したり、スライドショーを楽しんだり、何かしらの形で日々写真に触れているんです。子どもたちも遊びのひとつとしてパソコンで写真を見たり、スライドショーを見たりしています。家族で食事をするとときにスライドショーが流れているなんてこともよくありますね。

ご家族で楽しめるのはとてもいいことですね。お子さんたちにとっても、写真をたくさん撮ってくれて、スライドショーもしてくれる素敵なお父さんですね。

でも、息子たちは産まれたときからそういった環境なので、周りに写真があふれていることが当たり前だと思っているんじゃないですか。スライドショーを家族で見たりすることは日常的で、わざわざやっているという意識はないんです。本当にしょっちゅうしていますね。10歳になる長男とは、2人でカメラを持って近所を散歩しながら撮り合いっこをしたりもしますし、ママよりも上手に撮っていますね（笑）。あと、わが家では子どもたちの誕生日にはそれぞれ近所の写真館に行って、記念写真を撮ってもらうことにしているんです。きちんとカメラと向き合っ、気持ちも引き締めて撮ってもらうことってあまり機会がないですよね。だから僕には撮れない、貴重な1枚が撮れるんです。

これから写真で挑戦してみたいことはありますか？

「2時っチャオ！」と一緒に仕事をしている、久保田アナウンサー（以前talk! talk! talk!に登場）と番組ディレクターの3人で「2時っチャオ！」写真部を作っているんですが、まだ1度も活動していないんです（笑）。だからみんなでどこかに撮影をしに行きたいですね。写真を撮るためだけに早起きして、みんなで集合して遠出する。40歳過ぎてからそういうことをするのはなんだか新鮮でいいじゃないですか。これからは活発な活動をする写真部を目指したいですね。



[> コンテンツトップへ戻る](#)

※掲載している情報は、コンテンツ公開当時のものです。

株式会社 **ニコン** 映像事業部

株式会社 **ニコン** イメージング ジャパン

© 2019 Nikon Corporation / Nikon Imaging Japan Inc.